



「シマウマ」、「シャカ」連想

夏から秋にかけて、沿岸の岩礁域で見られるタカベ。主に中層を大きな群れで行動する。潮が

のブルーの体色。背部の鮮やかな黄色いラインは尻尾にかけて太く走り、切り込み

動き出すと、心もち上を向いた口をパクパク開けて、盛んにプランクトンを食う。成長につれて沖へ、さらに深みへと住み場所を変えて行動圏を広げていく。

伊豆の海から

の浅い尾ビレ全体を黄色一色で飾る。まことに華やか。ひと目でタカベとわかる。

海水に溶け込む極め付き

体に付く寄生虫には、相当悩んでいるらしい。海底近くに下降してきて、スズメダイやハコフグを取り囲

み、体をクリーニングしてもらおうときがある。終わると、行列になって元の方に戻る。そんなときはコイの滝登りを見るように、力強いエネルギーを感じる。

九州では「シマウマ」と呼ぶところがあり、和歌山県の串本あたりでは、お釈迦さんの法衣を連想して「シャカ」という俗称がある。

なお、前回の「カスザメ」は、エイではなくサメの仲間でした。

(水中写真家・伊藤勝敏)